エムティーアイ

第 27 期定時株主総会質疑応答概要
（2022 年 12 月 24 日開催）

Q：サイバー攻撃に対するセキュリティ対策がどうなっているか、製品の選択や環境の整備についてどうなっているか、また、優秀な人材こそリスクが高いとも考えることもできる。開発系人材のセキュリティ対策についてもどう考えているか教えてほしい。（会場質問）
A：まず、セキュリティに対してどのような考えかお答えします。ここ数年フィンテックやヘルスケア等の重要データを構築するにあたりセキュリティ、特に予防の観点で力を入れています。脆弱性診断やペネトレーションテスト（安全性を調査するテストの手法）を行っています。また、要件整理をする段階で機能のセキュリティ要件を十分に整理し、省庁から出ているガイドラインを遵守したセキュリティデザインを行っています。現在は攻撃された場合の早期発見、報告、対処について特に整備しています。クラウドサービス開発等における外部開発製品の選択については、当社では情報セキュリティ委員会において該当のソフトウエアをリストアップし、情報漏洩につながるシステムを利用しない方針を採っています。人材については、リスクが発生しないような体制を構築するようにしています。（取締役副社長 泉） （補足）当社では、外部のセキュリティ診断を実施するのみならずホワイトハッカーに敢えてハッキングをしてもらう等、一般的な日本企業に比べより強固と思われるセキュリティ対策を実施しています。一般社員に対してはセキュリティ教育を行うとともに、セキュリティに関する技術者を育成するために様々な方法を採っています。また、情報システム部門（ICT 室）が対応するのみならず、サイバーマネジメント推進室を設置し対策を講じています。さらに一部のクライアント企業に対して当社が推奨するセキュリティ対策メニューを提供する等、多方面でのセキュリティ対策を行っています。（代表取締役社長 前多）
Q：当社のコンプライアンス体制、下請法に関する違反についての事業部門および法務部の体制についてどうなっているか。（会場質問）
A：個別の案件にはこの場ではお応えできませんが、当社にはコンプライアンス推進統括室があり、各取引案件のモニタリングを行い、コンプライアンス的な視点で内容を確認し、誠実な対応を行ってまいります。また、コンプライアンスに関する問題については、今度も改善に努めてまいります。

以上